

### 会員卓話 7/12 児玉武文

ロータリー例会に出席することによって、会員それぞれの職業を通じて自分の経験していることを知ることができます。何かを得て帰ることができます。ロータリークラブは、会員相互で切磋琢磨することが大切であるといわれている意味が分ってきたように思います。

斎藤会員の、池に日暮をすれば青のりが生えないとの話、藤堂会員の煉瓦を張るときはメジにテープを張り付けて、後で取除くとよいという話、佐野前会長の花にふれて人の心の豊かさを教えていただいた話など、すべて私の視野を広め、知識を深める卓話ばかりでした。

さて、毎回のことながら、自分は卓話でどのような話をしたらよいのかと考えさせられます。一国一城の主でない私たちサラリーマンは、経営者の方とは視点も違い、内容的に自信もありません。今後いろいろと勉強をしていかなければならぬと改めて考える次第です。

最近のゴルフ界の話になりますが、岡本綾子が悲願10年をかけてのアメリカ四大メジャーに挑戦しています。6月30日に優勝決定戦があり、メグ・マーランと18番ホールまで対で進み、最後に岡本が5mのバットを外し、マーランが2.5mのバットを入れ、結局1打差で決着がつきました。岡本にとっては極めて理想的な優勝のチャンスであったのですが、日本のマスコミのプレッシャーもあり、残念ながら念願を果すことはできませんでした。

岡本綾子が優勝を逃したのは大変惜しいですが、挑戦的に終始闘うことができたのは満足であると本人は言っています。岡本はその後18番ホールに行って、5mの距離から何回もパッティングをしたそうですが、その時は全部球がホールに入ったそうです。それで、岡本は自分のパッティングは間違っていたいなかった、ということを確認して会場を去ったということです。

私達でも全く同様で、最後のパッティングというのは、次の回のプレイと関連があるような気がします。7時までテレビを視ていましたところ、岡本は前半で1オーバー、後半でボギーを3出しました。成績が今一つということであったようです。

全米女子オープンゴルフ大会は最も権威のあるもので、150名の選手が参加し、20名の一流のプロ選手も加わります。皆様も今後是非全米女子オープンに関心を持っていただきたいと思います。時間が切れましたので、このあたりで終らせていただきます。

### 会員卓話 岩切正司

時期的に「お盆」の話をします。実は1年前にも「お盆」の話をしましたが、話というものは一度聞いたら覚えているかといえば、そうでないらしいです。ですから、もう一度お話ししてみたいと思います。

お盆は7月又は8月にあります。7月の盆といいのは、早期水稻の収穫が8月のため農村に多く、非農家の方は8月盆をされているようです。佐土原町では従って2回盆をしています。

お盆の始まりとなったのは盂蘭盆經です。

これは中国でできたお經であるといわれていますが、これは少しおかしいのではないか、偽經という言葉を使う人もいます。

印度で書かれたものでないとお經でない、釈尊が書かれたものでないと經典にならないといわれます。けれども日本では、この盂蘭盆經というものが一番定着しています。日本人の考え方と盂蘭盆經の内容がよく合致しているからでしょう。もう一つ偽經といわれるお經の中に、父母恩重經があります。この二つが中国でできたお經と呼ばれています。

では盂蘭盆經には何が書いてあるかということをお話しいたします。その中で木蓮尊者という、釈尊の十人弟子の一人が主人公になっております。ある日自分の母親が居なくなりました。一体どこに居るのだろう。そこで木蓮尊者は、

佐土原RC  
**週報**



国際ロータリー第2730地区  
佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30  
例会場 ホテル神宮寺 0985-73-0015

Raya

ラジエンドラ・K. サブー  
1991~1992年度R.I.会長

**自分を超えた眼を**  
*Look Beyond Yourself*

ロータリー理解推進月間	
1992. 1. 31(金)	第207回例会
1. 点鐘	
2. ロータリーソング「それでこそロータリー」	
3. 「四つのテスト」唱和	
4. 食事	
5. 会長の時間	
6. 幹事報告	
7. 各委員会報告	
8. 会員卓話	
9. 点鐘	

第206回例会記録

(1992. 1. 24)

会長の時間

濱田 松太郎

皆さん今日は、本日は第206回例会です。貴重な例会の時間に、一部私事を混えてお話しすることを申し訳なく思いますが、実は私は先週18日より3日間、大阪の姪の結婚式に向いたのですが、宮崎空港で、偶然にも岩切正司君（次年度会長エレクト）と会いました、往きの大坂便が一緒でした。そして帰りも、20日の宮崎行き最終便で奇しくも大阪空港でばったり会い、共に帰宮しました。

思うに、世の中は広いようで案外狭いものだな、また、悪いこと（例えばスキャンダル等）もできないな、とつくづく考えさせられました

大阪での結婚式場は、有名な“森の石松が次郎長親分の代参で四国の金比羅様に詣でた帰り途、大阪八軒家から舟に乗り京都の伏見まで舟旅をしたという”、その舟着場八軒家の近くに

在るキャッスル・ホテルでしたが、6階から川を眺めましたところ、どんよりと濁って酸素が少なく、魚たちの住めそうな場所ではないと思いました。

3日間の大阪の印象としては、とにかく人が多く、忙しく、車が多いことで、油断もすきもあったものではなく、大気もどんよりとしていて、こんなところで生活している人たちは気の毒だなあと思いました。それにひきかえ、宮崎の自然は太陽がさんさんと照り渡り、大気が澄み、人間が生きていく上において最も大事な要件を充たしているように思いました。この環境や自然をいつまでも大事にして、子孫に残していきたいものであると考えます。

ところで、今月は「ロータリー理解推進月間」です。このことにつきましては先週にも申上げましたが、ロータリーを理解する近道は、毎週開かれます例会に出席して、ロータリアン相互の親睦を深めながら奉仕の理想を勉強することが基本ではないかと考えます。そして、クラブフォーラム・地区協議会・地区大会・その他の協議会を通して事情の許す限り参加し、多くのロータリアンに接し、自己研鑽に努力することが肝要かと存じます。そして、東洋流に申上げますならば、ロータリーを理解するうえで、儒教の中で「恕の心」とも言われておりますが、私なりに辞典をひもといてみると、「思いやり、自分の心を他におし及ぼす同情心、大目に見て他人のあやまちを許す、恕而行之（思いやりをもって事を行う）」というように書いてあ

事務局〒880-03宮崎県宮崎郡佐土原町大字上田島20(株)宮崎食品サービス内 TEL 0985-0044  
会長 浜田松太郎・副会長 児玉武文・幹事 鈴木正敏・会計 藤堂孝一・会報責任者 垂水敏雄

ります。論語の一節を引用してみます。  
子曰く、「參や我が道は一もって之を貫く」と、曾子曰く「唯」と。子出ず。門人聞いて曰く、「何の謂ぞや」、曾子曰く「夫子の道は忠恕のみ」と。

孔子が門人の曾参に向って、「私の処世の道は、ただ一筋の理想で貫かれていたのだよ」と言った。それに対して曾子は即座に「はい」と答えた。ところが、同席していた他の門人達は何のことか解らず、孔子が退席された後で、「今の話の内容はどういう意味なのですか」と質問した。曾子はそれに対して、「先生の道は忠恕、すなわち誠実と思いやりということに尽きる」と教えた。

さてここで、「忠」と「恕」を分析してみましょう。「忠は、口にしんばり棒を掛け、その下に心ですので、言と成でつくられる「誠」と同じで、嘘を言わないことです。ロータリーの四つのテストの「眞実かどうか」につながると思います。そして「恕」は「ゆるす」とも読みますが、如と心ですから、相手の気持になれということです。

「忠」と「恕」、みんながこのような心掛けになったなら、世界中は円く治まるのではないかと考える次第です。

幹事報告 鈴木正敏  
ガバナー月信第7号をお手許にお配りしました。内容をよく読んで、ロータリーの勉強をしましょう。

出席報告 神宮寺利夫  
会員数 18名  
欠席者数 1名  
H C出席者数 17名  
出席率 94.4%  
欠席者名 井下

ビジター -

西都RC 蔡押邦弘君・尾崎公男君  
久留主啓藏君・大石太郎君

親睦委員会より 委員長 齊藤数馬  
1月セレモニー

1.去る11月19日、佐土原ロータリークラブゴルフコンペ(座論梅ゴルフクラブで開催)における優勝権が漸く届きましたので、当日の優勝者「池田仁志君」へ会長から授与し、その栄誉を称えます。

2.本月誕生日を迎えた方々に対し、会長から記念品を贈呈して祝福申し上げます。

1月受祝会員

池田仁志君 井下満男君  
齊藤数馬君 正岡文郁君  
鈴木正敏君

ハッピー・ボイス

誕生日祝いありがとうございました。50歳にして立つ、益々人生勉強に頑張ります。

池田仁志

昔は人年50年といわれておりましたが、知らぬ間に56年間も人間をやらせていただいたことになります。これもひとえに皆様のおかげと深く感謝し、今後とも体には十分気をつけて、少しずつでも世の中のお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願ひ申上げます。有難うございました。正岡文郁

誕生日の記念品をいただき、誠に有難うございました。44回目を迎ましたが、今後とも体に気を付けて頑張って行きたいと思います。齊藤数馬

\*受祝会員の皆さんから多大のハッピーをいただきましたので、厚くお礼を申し上げます。

ロータリー情報委員会

会長よりロータリー財団第3号を紹介し、第1週～第4週を通読しました。その後で、一つ瀬川浄化問題について、(これは1月22

日に開催された宮崎市内5RCの、大淀川浄化問題とも関連がありますが)、将来佐土原RCとしてどのように取組むべきかを検討していただきたい、と会長から提案がありました。

西都RCからのビジター尾崎公男君より次のように発言がありました。

「二ツ立の川に、ボラが赤い斑点ができるで多数死んでいた。酸素欠乏が原因かと思う。濁度はB~C級で、大淀川と大差がないということである。これは大変なことである。昨年の秋ダムの濁った水を放流したときに、川岸から魚がいなくなってしまった。佐土原RC・西都RCが共同で、この実状をとらえて、流域の排水による河川汚染の問題を話し合う必要があると考える。このまま放置しておくと、佐土原の皆さんも私たちもこの水を飲んでいるわけで、重大な影響を受けることになる。」

結論として、私達ロータリーとしてできることは、先ず実態を調査し、資料を作成し、行政に訴え、マスコミに働きかけることであろう、ということになりました。

#### 会員卓話 (II) 山脇 忍君

50歳~60歳になるとモノ忘れるのがげしくなると思われているが、それは知能が衰えたのではなく、われわれが過ぎ去った生活習慣の中でいろいろ詰め込んでいることがらのうち、あまり現在に縁のないものはだんだんと希薄になってくる、ということあります。

その証拠に、その人が専門として打込んでいるところがは、ほかの人よりはるかに記憶しています。歯科医師に例をとりますと、歯について必要不可欠な事項は、60歳、70歳、80歳になっても記憶しています。やはり、生活に密着しているものは記憶として残されています

日常生活に疎遠になったものだけが、次第に記憶から失われていくわけです。決して記憶が衰えたためではない、といわれています。

皆さんも40歳~50歳となるわけですが、これからいろいろ勉強していると、楽しいことが一杯あります。折角アメリカへ行っても、英語が話せないので、やはり面白さも半減し、彼女ができるても愛することができません。

私も南米に行きました時、6ヶ月にもなりますとやはり女性も恋しくなりますから、一所懸命会話の勉強をしたのですが、自分の真意を彼女に伝えるためにはなかなか苦労しました。

先日濱田会長が言われましたように、ロータリアンならば英語ができるのはあたりまえでなければならないと思います。外国人のお客さんが来た時、英語の通訳ぐらいはできるようになりますとを考えます。皆さんと一緒に、英語やスペイン語などをこの際勉強したいものだと思います。少しずつでも毎日学んでおられますと、だんだん上達していきます。例会でたまには英語で話したり、英会話等の練習ブロックをクラブ会員でつくったら面白いのではないかでしょうか。

私は感染症が専門の医師です。昨年は12月頃から風邪が流行しております。これは鼻かぜウィルスといって、82種ぐらいありますが、症状はあまり重くはなく、鼻づまり、そして喉が痛みます。休むほどではありませんが、放置していますと場合によっては2~3ヶ月も症状が続くことがあります。事実昨年10月に受診した人が、いまだに鼻づまりが治らない、あるいは喉が痛いといって来診しております。

今年になって、インフルエンザがないなと思っていたところ、先週ごろからインフルエンザと思われるものが流行し始めました。そして、発病者は小学生が多いようです。それも高学年に多い。症状は、突然高熱を出して発病するのが特徴です。あとから、喉が痛いとか、咳が出るとかの症状が表われます。

家族内で小学生の5~6年生とか中学生が感染して、どうして乳児には感染しないのでしょうか。ウィルス学者はこれをどのように解釈するのか、私たちの最も得意とするところです。

人間というものは、生れて最初に感染したウイルスには非常に強くなります。例えば、その人が生れて最初にホンコン風邪に罹ったとします。そうすると、ホンコン風邪に対する抵抗力は非常に強くなり、その後ホンコン風邪が何回か流行しても、なかなかその人は感染しません。

ソ連風邪に罹ったとすれば、同様にソ連風邪に対しては抵抗力が非常に強くなります。

面白いことに、40～50歳になってしまっても、この人が初めどんなウイルスに罹ったかということは、調査してみればわかります。その人が生れて最初に罹ったウイルスの抗体が一番高く反応するといわれています。

それで、その人の血清を探って調べますと、その地域に、何年前にどういうウイルスが発生したかが疫学的にわかるわけです。ですから、アマゾンに行っても、南方のいろいろな地域に行っても、住民から血清を探ったり、ワクチンを注射したりして、その反応を調べると、それによって、その地域に昭和初期にはどんなインフルエンザが流行したかがわかります。私たちは、血清を探ってこのような調査をすることを「血清考古学」と呼んでいます。つまり、その人の血清を探って調べると、その人が昔罹った病気の記録がちゃんと残っています。それを年齢別に整理すると、その地域の過去におけるいろいろな病気の歴史がわかります。実は私は、この「血清考古学」を最近まで研究してきましたので、南米へ行ったのもそういう目的からでした。一遍罹ったウイルスには、それに対する抗体が真先にあがる、これを学術語では「抗原」といいますが、「初恋の味」とも呼んでいます。一度覚えたものは、いつまでも覚えているわけです。

このような調査で、今度のウイルスはA型ではないだろうかと予想されます。それと、もう一つは、あまりウイルスが変りばえしないということです。ウイルスの変異が強ければ、もっと誰にでも感染するわけですが、特定の年齢層の者しか罹らないということは、やはり変

りばえしないウイルスです。従って、今のインフルエンザは安静にし、栄養をとり、薬を飲めば2～3日で治ります。

インフルエンザの流行の仕方は、先ず暖いところでは家族内感染ですが、1m以上近くに寄らないと感染しないということは、暖いとウイルスは直ぐに死んでしまうからです。また、湿度が高いと直ぐに死にます。大体気温が25℃以上、湿度が80%だったら、10分ぐらいでインフルエンザウイルスは死滅します。クシャミをしても、かなり接近しなければ、暖く湿度が高い時期には感染しにくいということです。

インフルエンザが急に爆発的に発生するのは、気温と湿度に関係があります。インフルエンザウイルスは、気温5～10℃、湿度30～40%では6～10時間も生きることができます。

従って、職場での感染、学校内感染、乗物内感染の機会が多くなります。これを空気感染といっていますが、学術語では「飛沫核伝染」といいます。これは相手に飛沫を吹きかけて、それを吸って感染するのです。一度床上に落ちたウイルスが空気中に浮いたのを吸って感染することもあります。寒冷で乾燥が続くと、密閉した職場や学校では、飛沫核伝染によってどんどんインフルエンザが拡がっていくわけです。

では、飛沫核伝染を防ぐにはどうすればよいか、ということになりますが、アメリカでは殺菌燈を設置しています。手近かにできることでは、窓を開けて換気をする、学校での廊下や床の拭き掃除は十分濡らした雑巾を使う、ことです。電気ヒーターやエヤコンの暖房は室内を乾燥させますので、最近は蒸氣を発生する暖房器も市販されています。ガストーブ、石油ストーブは比較的乾燥させません。

やはり換気することが一番大切かと思います。

いつも山脇先生には急に卓話のピンチヒッターとしてお願い申上げ、申訳なく思っています。今回も、佐土原RC例会充実のため貴重な学術講演をしていただき、心から厚く感謝申上げます。  
(濱田会長コメント)